

蒲郡市の公共施設のあり方に関する提言

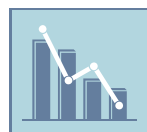
蒲郡市ではこれまで、人口増加や高度経済成長、昭和50年代までの潤沢なモーターボート競走会計からの繰入金などを背景に施設整備を進めてきましたが、人口減少や少子高齢化を迎え、財政状況も厳しくなっています。

一方で公共施設は、市民の暮らしを豊かにし、住んでいる人が輝ける場を提供し、まち全体の魅力を高める役割を担っています。財政状況が厳しい中でも、身の丈にあった施設配置と同時に魅力あるサービスを提供し、また使ってみたくなるような公共施設を創出する必要があります。

また、公共施設マネジメントを適切かつ確実に推進するために、既に取り組んでいる自治体では、庁内横断的な推進体制の構築や市民との協働による推進、PDCAサイクルによる管理など、様々な方策を行っています。これらを踏まえ、蒲郡市でも取組みを進める必要があります。

これら踏まえ、以下の通り、3つの観点から公共施設のあり方に関する具体的な取組みを提言します。

観点①



財政状況や社会情勢の変化を踏まえた「身の丈にあった」公共施設



- 複合化・統廃合による施設保有量の適正化・運営の効率化
- 民間との協働促進によるコスト減
- 利用料金の適正化
- 施設の長寿命化、計画的な修繕・改修
- 施設規模の縮小
- 新たな建設投資の抑制
- 近隣自治体との連携
- 市民による負担者としての判断

観点②

まちの魅力を高めるための公共施設



- 子どもや高齢者の居場所・交流づくりの推進
- まちの核となるエリアの魅力創出
- 複合化による新たな効果の創出
- 施設・地域の特性の把握
- 地域による主体的な運営
- 交通を踏まえた施設配置の検討(公共交通・自動車の利便性向上)
- ハードではなくソフトでのサービス提供
- 市民の「安全」「安心」を守る
- 公共施設の周知・認知度向上

観点③

公共施設マネジメントの推進方策



- 行政のやる気・スリム化・トップマネジメント
- 実効性のある計画策定・PDCAサイクルによる管理
- 庁内の横断的な取組み
- 施設の役割・機能別のマネジメント
- 市民との協働による推進